

シ ラ バ ス

学科目	助産学概論	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 15 時間	前期
目的	<p>助産の基本的理念、助産の変遷、助産師の責任と役割、助産師の職業倫理について学び、助産師の専門職性を考える。また助産ケアに有用な理論を学び、親子・家族関係とその発達を支援する援助、出産や子育ての意義について考える。</p> <p>助産師が女性の一生の支援者であるために、さまざまな課題を探究する姿勢を持ち続けることの重要性を理解する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の学修を関連させ、助産師の専門職性を述べる。 2. 親性と親性を支援する助産師援助について自分の考えを述べる。 3. 助産師の倫理綱領について例を用いて説明する。 4. 助産師として対象に寄り添うこととは、どのようなことか言語化する。 5. 助産に関する興味関心あることを調べ、発信する。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師とは、助産の概念、リプロダクティブヘルス/ライツ、助産の歴史、助産の変遷、多様な文化における助産 2. 親性の発達と育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 母性の概念、母性から親性へ 女性のライフサイクルの特徴 (2) 母子関係の形成・父子関係の形成と助産師活動 3. 助産と研究 4. 助産学の基盤となる理論 5. 助産師と倫理、助産師の役割と責務 医療安全対策、助産師に求められるチーム医療 6. 母子保健における今後の課題と助産師の役割 7. 女性の支援者としての助産師 8. 単位認定試験 					
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義とワークを行います。 					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師助産師看護師法に掲げてある定義、責任や役割など事前学習をしましょう。 ・新聞やニュースなどを読み、社会で求められている助産師像を知り、自分なりの助産観を考えましょう。 					
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <p>助産学講座1 基礎助産学[1] 助産学概論 第6版 医学書院 助産学講座4 基礎助産学[4] 母子の心理・社会学 第5版 医学書院</p>					
評価方法	<p>筆記試験</p>					

学科目	基礎助産学 I	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	前期
目的	助産の実践に必要な対象との信頼関係を築くために、自己理解・他者理解の重要性を学ぶとともに、実践的なコミュニケーションスキルの向上をめざす。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が自身の対人関係づくりの長所と短所を理解し、改善のための具体的行動をとる。 2. 対象者の不安を客観的に理解し、相手のパーソナリティに応じた方法で自己開示を促す。 3. 単なる聴き手にとどまらず、双方の尊厳を大切にしつつコミュニケーションを図ることによって、信頼関係を深める。 					
授業計画	<p>【人間理解とコミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-2. 人間関係づくりの基礎 —— 信頼関係を築く お互いの防衛を尊重する —— よろいを解くことが目標ではない 適切な距離を保つ —— パーソナルスペースを意識するワーク 想いを伝える —— 言葉の巧みさに頼らない 3-4. 五感を研ぎ澄ます ①視覚を使うワーク 五感を研ぎ澄ます ②聴覚を使うワーク 五感を研ぎ澄ます ③触覚を使うワーク 協調と共感する力をつける ①相手のオファーを受けとめる 5-6. 協調と共感する力をつける ②主導権を交換するコミュニケーション 感情表現に注目する ①感情を目に見えるようにする 感情表現に注目する ②抑圧された感情に思いを寄せる アサーティブなコミュニケーション ①同調と共感の違い 7. アサーティブなコミュニケーション ②互いに意思表示できる関係づくり さまざまなパターンに見る他者理解 8. 単位認定試験 					
教育方法	講義・グループワーク 座学だけでなく、ロールプレイや相互観察、それらのフィードバックなど、さまざまなグループワークを通して、体験的に学習する。					
履修上の助言	対人援助職を志す気持ちの強さと、良好な人間関係を築く自信とは、必ずしも一致しないものである。後者の苦手意識を抱えながら、不安にかられる学生もいる。多くの体験演習を含む授業であるが、全員が真摯な態度で積極的に臨むことを切望する。					
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <p>対人関係を通しての自己理解ワークブック ひとのこころとふれあう私 遠藤健治 培風館</p>					
評価方法	筆記試験					

学科目	基礎助産学Ⅱ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	前期
目的	<p>セクシュアリティ、ジェンダー、家族について心理・社会的に学ぶことによって、女性の生涯を支える専門職に必要な知識と姿勢を学ぶ。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフコースにわたる女性のリプロダクションを社会的に説明する。 2. 現代の社会における女性のありようについて自分の意見を述べる。 3. 様々な背景をもつ女性と家族に対し、助産師としてどのように支援できるか自らの考えを表現する。 					
授業計画	<p>【女性と社会学】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性、ジェンダー、セクシュアリティ：ジェンダーとは何か 2. 性、ジェンダー、セクシュアリティ：セクシュアル・マイノリティ 3. 結婚と婚姻：非婚化、晩婚化、嫡出推定、婚外子 4. 女性のライフコース：隠れたカリキュラム、ジェンダートラック、ワークライフバランス 5. 出産：歴史 6. 出産：テクノロジーと女性のリプロダクション経験 7. 女性と子どもの支援：被虐待、非行、貧困、DV、社会的養護、養子縁組 <p>☆習熟状況と照らし合わせながら、順序を入れ替えることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 単位認定試験 					
教育方法	<p>講義、グループワーク</p>					
履修上の助言	<p>一度、助産学や看護学の見方を離れ、社会的に（あるいはもう少し広く社会科学的に）女性や子どもを捉えることが、結果的に今後の助産師としての働きに役立つのではないかと考えます。</p>					
テキスト 参考書	<p>【テキスト】 助産学講座4 基礎助産学[4] 母子の心理・社会学 第5版 医学書院</p>					
評価方法	<p>筆記試験</p>					

学科目	基礎助産学Ⅲ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	前期
目的	<p>女性の生涯にわたる健康支援を実践するために生殖器系の形態と機能の発達を学び、さらに生殖器系の病態や治療について理解を深める。</p> <p>周産期に使用する薬剤について理解し、助産師として母子の安全を守るための知識を深める。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生殖器の発生機序、生殖機能について説明する。 2. 女性生殖器疾患の病態生理とその症状のメカニズムを説明する。 3. 診断のために必要な検査、治療について説明する。 4. 女性のライフサイクル各期に起こる健康問題とその支援を列挙する。 5. 女性生殖器疾患に使用する薬剤の作用、副作用、留意点を説明する。 6. 周産期に使用する薬剤の作用、副作用、留意点を説明する。 					
授業計画	<p>【女性生殖器疾患の病態と治療 8時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期、思春期疾患の病態と検査、治療及び処置 成熟期の疾患の病態と検査、治療及び処置 2. 性感染症の病態と検査、治療及び処置 3. 不妊症の病態と検査、治療及び処置 4. 更年期の疾患の病態と検査、治療及び処置 <p>【女性生殖器疾患及び周産期各期に用いられる薬剤 6時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 女性生殖器疾患に関するもの 子宮内膜症や不妊症に用いられる薬剤 感染症に用いられる薬剤 6. 周産期に用いられるもの 妊娠中に用いられる薬剤(胎児に及ぼす影響・周産期における薬剤投与の原則) 産科合併症に用いる薬剤・合併妊娠に用いる薬剤 7. 分娩・産褥期に用いられる薬剤(分娩誘発に用いる薬剤・子宮収縮剤・授乳と薬剤など) 8. 単位認定試験 					
教育方法	講義					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・性周期や妊娠のメカニズムは説明できるレベルに達しておく。また女性生殖器疾患の復習をして臨む。 ・周産期各期に用いられる薬剤は実習で必須の知識となるため積極的に授業に臨む。実習に役立つ資料(ノート)を作っておく。 					
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <p>助産学講座2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 第6版 医学書院</p> <p>助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学 第5版 医学書院</p> <p>助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 第6版 医学書院</p> <p>助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 第6版 医学書院</p> <p>助産師基礎教育テキスト第2巻 ウィメンズヘルスケア 2022年版 日本看護協会出版会</p>					
評価方法	筆記試験					

学科目	基礎助産学IV	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 30時間	前期
目的	<p>新生児およびハイリスク新生児の子宮外生活適応への支援するために、新生児の特性や新生児疾患の病態・治療と新生児蘇生法について学ぶ。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児の生理の特性を説明する。 2. 新生児期の生理的变化を新生児期に起こりやすい疾患に関連づける。 3. 新生児疾患の病態・治療を説明する。 4. アルゴリズムに則り蘇生の必要性を判断する。 					
授業計画	<p>【新生児の病態と治療・処置】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-2. 新生児の特性と疾患 ① 新生児の生理、感染症 3-4. 新生児の特性と疾患 ② 呼吸と呼吸器疾患、蘇生 5-6. 新生児の特性と疾患 ③ 循環、神経、体液とその疾患 7-8. 新生児の特性と疾患 ④ 消化器、血液、黄疸、内分泌 9-10. 新生児外科疾患の病態と治療の実際 11-14. 新生児蘇生法演習 15. 単位認定試験 					
教育方法	<p>講義・演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像、映像を用いた講義 ・モデル人形やシナリオを用いて新生児蘇生法Aコースの習得を目指す 					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児の生理的特徴、身体的特徴、全身の観察項目、反射、各種指標・スコアとその評価などを復習して授業に臨む。 ・実習で出生直後の児のケアを実践するための基盤となる授業である。胎児循環から新生児循環への生理的適応や、呼吸確立の過程などを復習して臨む。 ・授業で生じた疑問や不明な点は積極的に質問する。 					
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <p>新生児学入門 第5版 医学書院</p> <p>助産学講座8 助産診断・技術学II [3] 新生児期・乳幼児期 第6版 医学書院</p> <p>助産師基礎教育テキスト第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア 2022年版 日本看護協会出版会</p> <p>新生児蘇生法テキスト 改訂第3版 メジカルビュー社</p>					
評価方法	<p>筆記試験</p>					

学科目	基礎助産学V	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 30 時間	前期														
目的	ハイリスク妊産褥婦の支援をするために、妊娠・分娩（胎児及びその附属物も含む）・産褥期の身体の変化と生理的变化が母体に及ぼす影響を理解し、周産期に起こりうる病態や治療及びその対処法について学ぶ。																			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の解剖生理について説明する。 2. ハイリスク妊娠について病態・診断基準・治療・管理について説明する。 3. 正常な分娩の経過について説明する。 4. 分娩期の異常について病態・診断基準・治療・管理について説明する。 5. 分娩期の胎児の健康状態の判断と対処方法を説明する。 																			
授業計画	<p>【周産期の解剖生理 8時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受精と発生、付属物 2. 妊婦の経過とホルモンの変化、その他の内分泌の変化 3. 免疫と血液型不適合、母子感染 4. 産道の解剖学と分娩 <p>【周産期の病態と治療 20時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. ハイリスク妊娠 妊娠高血圧症, HELLP症候群, 常位胎盤早期剥離、子癇 6. ハイリスク妊娠 前置胎盤, 低置胎盤, 羊水過多・過少, 双胎、 7. ハイリスク妊娠 呼吸器疾患、血液疾患、自己免疫疾患、内分泌疾患、精神疾患、婦人科疾患、感染症 8. ハイリスク妊娠 切迫流産・早産, FGR, 前期破水、絨毛膜炎 9. 分娩経過 分娩の三要素 10. 分娩経過 分娩機転と取扱（分娩中の管理）、内診所見 11. 分娩管理 分娩監視装置の読み方と処置 12. 分娩の異常 産道の異常、娩出力の異常、娩出物の異常（胎盤用手剥離も含む） 13. 分娩の異常 母体損傷（血腫も含む）、分娩時の異常出血（DICも含む）、子宮内反症 14. 分娩の異常 産科手術（C/S）とその合併症、分娩時の鎮痛法（無痛） 15. 学習時間・単位認定試験 																			
教育方法	講義																			
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間内に理解するようにし、授業で生じた疑問や不明な点は積極的に質問する。 ・分娩の定義、分娩の3要素、分娩機転、陣痛など分娩に関連する項目は自己学習して臨む。 																			
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <table border="0"> <tr> <td>助産学講座2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 第6版</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学 第5版</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>助産学講座6 助産診断・技術学II [1] 妊娠期 第6版</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>助産学講座7 助産診断・技術学II [2] 分娩期・産褥期 第6版</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア 2022年版</td> <td>日本看護協会出版会</td> </tr> <tr> <td>助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 2022年版</td> <td>日本看護協会出版会</td> </tr> <tr> <td>胎児心拍数モニタリング講座 改訂第3版</td> <td>メディカ出版</td> </tr> </table>						助産学講座2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 第6版	医学書院	助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学 第5版	医学書院	助産学講座6 助産診断・技術学II [1] 妊娠期 第6版	医学書院	助産学講座7 助産診断・技術学II [2] 分娩期・産褥期 第6版	医学書院	助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア 2022年版	日本看護協会出版会	助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 2022年版	日本看護協会出版会	胎児心拍数モニタリング講座 改訂第3版	メディカ出版
助産学講座2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 第6版	医学書院																			
助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学 第5版	医学書院																			
助産学講座6 助産診断・技術学II [1] 妊娠期 第6版	医学書院																			
助産学講座7 助産診断・技術学II [2] 分娩期・産褥期 第6版	医学書院																			
助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア 2022年版	日本看護協会出版会																			
助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 2022年版	日本看護協会出版会																			
胎児心拍数モニタリング講座 改訂第3版	メディカ出版																			
評価方法	筆記試験																			

学科目	助産診断・技術学Ⅰ	講師名	外来講師 学内教員	単位 (時間)	1単位 15時間	前期
目的	<p>妊娠期の診断技法を理解し、妊婦及び胎児の健康状態を判断するための知識・技術を修得する。</p> <p>ハイリスク妊婦のケアとして、特に妊娠期のメンタルケアに注目し、対象の理解を深め、家族を含めて継続的に支援する能力を養う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠経過の判断に必要な情報を分類する。 2. 妊婦健康診査に必要な技術を正確に、かつ安全・安楽に配慮して実施する。 3. 胎児に予期せぬ異常が発生した対象および家族に、対象の意思を尊重した支援の重要性について討議する。 					
授業計画	<p>【妊娠期の診断技法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠経過の情報収集とアセスメント 2. 妊婦健康診査に必要な技術と保健指導 3-4. 妊婦健康診査に関する演習、リフレクション 5. 妊娠期の超音波検査（超音波による胎児の発育・健康状態の診断技術） <p>【ハイリスク妊婦のケア】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 胎児異常と診断された家族のケア 7. 早産児（低出生体重児）を出産した家族・赤ちゃんを亡くされた家族のケア 8. 単位認定試験 					
教育方法	講義・演習					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康診査に関する演習（レオポルド触診法、腹囲・子宮底長測定など）は、事前にモデルを使用し、安全・安楽な技術が提供できるように練習して臨む。 ・グリーフケアや先天異常が胎児に見つかった時のケアなどに関する文献（私記など）を読み、自己の考えや望ましいケアをまとめておく。 					
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <p>助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 第6版 医学書院</p> <p>助産師基礎教育テキスト第4巻 妊娠期の診断とケア 2022年版 日本看護協会出版会</p> <p>これから始める！周産期超音波の見かた 改訂2版 メディカ出版</p> <p>助産学講座4 基礎助産学[4] 母子の心理・社会学 第5版 医学書院</p> <p>助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア 2022年版 日本看護協会出版会</p> <p>産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020 日本産科婦人科学会</p>					
評価方法	筆記試験					

学科目	助産診断・技術学Ⅱ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	前期
目的	<p>分娩期の異常のケアでは、分娩期の異常や異常分娩、分娩にともなう損傷、偶発疾患とそのケアについて学び、助産実践に繋げる知識を養う。</p> <p>麻酔分娩の管理とケアについて学び、助産実践に繋げる知識を養う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期に遭遇する異常を列举する。 2. 分娩時に遭遇する異常時に必要な支援を見出す。 3. 麻酔分娩の管理方法と支援について解釈を述べる。 					
授業計画	<p>【分娩期にある人の支援（異常時、麻酔時）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-2. 異常分娩、分娩の三要素の異常のケア 3. 陣痛誘発・促進法とケア 4. 母体の異常とケア、出血時のケア 5. 産科手術・緊急処置時のケア 6-7. 麻酔分娩のケア 8. 単位認定試験 					
教育方法	講義					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩機転、陣痛の異常、児の回旋異常、破水、子宮収縮不全、分娩時の裂傷の種類などを事前学習しておく。 ・緊急時の処置（ショック体位、出血時の処置）を学習しておく ・周手術期のケア（麻酔の種類と合併症、手術後の管理及び観察項目など 特に帝王切開に関連する事項）を復習して臨む。 					
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <p>助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 第6版 医学書院</p> <p>助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 2022年版 日本看護協会出版会</p> <p>産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020 日本産科婦人科学会</p>					
評価方法	筆記試験					

学科目	助産診断・技術学Ⅲ	講師名	外来講師 学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	前期
目的	産褥期の心身の変化について理解を深め、産褥期における継続支援の重要性を学ぶ。また、産褥期に必要な診断技法を理解し、褥婦の健康水準を判断するための知識・技術を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 褥婦の健康を継続的に支援するための方法を説明する。 2. 母乳育児の視点で必要な情報を列挙し、必要な支援を立案する。 3. 事例に合わせた母乳育児支援を手順に基づいて実践する。 4. 産後うつ症状を早期に発見し、必要な支援を挙げる。 5. 児の虐待を予防するための支援の必要性を理解する。 					
授業計画	<p>【産褥期のケア 6時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥期の退行性変化と心理・社会的変化（分娩後～1か月健診） 2. 分娩後から1か月健診までの継続支援の考え方 3. 分娩後から1か月健診までの継続支援の実際 <p>【母乳育児支援 10時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4-5. 乳房の生理的変化、母乳育児支援のステップと方法 6-7. 乳房トラブルの診断・育児期の授乳について 8. 母乳育児の現状と課題 <p>【産後うつへの支援 8時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9-11. 母親のうつへの支援 12. 父親のうつへの支援 <p>【児の虐待ハイリスク要因の予防的支援 4時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 13-14. 児の虐待の発生要因と予防的支援 <p>15. 学習時間・単位認定試験</p>					
教育方法	講義・演習					
履修上の助言	・産褥期の心身の変化と支援については、看護基礎教育で学んだ内容を復習して授業に臨む。					
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <p>助産学講座4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学 第5版 医学書院</p> <p>助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 第6版 医学書院</p> <p>助産師基礎教育テキスト第6巻産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア 2022年版 日本看護協会出版会</p> <p>助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 2022年版 日本看護協会出版会</p>					
評価方法	筆記試験					

学科目	助産診断・技術学IV	講師名	外来講師 学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	前期
目的	<p>新生児およびハイリスク新生児の子宮外生活適応への支援するために、新生児期の生理的変化について理解を深め、子宮外生活適応過程の支援をするための知識を学ぶ。新生児の健康水準を判断するための知識・技術を修得する。また、乳幼児の健康支援をするためにソマティック教育(身心教育)の理論をもちいて、乳幼児の心身の成長と発達・発育について学ぶ。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児の生理の特性を説明する。 2. 子宮内環境から子宮外環境への適応過程を踏まえて、判断と予測をもとに根拠のあるケアを立案する。 3. 出生直後の新生児の系統的な観察と諸計測を正確に実施する。 4. ハイリスク新生児に対する支援を列挙する。 5. 母親や家族が新生児(ハイリスク新生児を含む)の個性を踏まえた育児ができるための支援を述べる。 6. 乳幼児の発達の順序性を説明する。 7. 乳幼児の発達のプロセスを体験し、発達を促す支援を述べる。 					
授業計画	<p>【新生児のケア 14時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児ケアの基本、新生児の適応生理 2. 出生後24時間以内のケア 3. 出生後24時間以降の早期新生児のケア、新生児の安全管理 4. 退院から1ヶ月健診までの支援 5-7. 出生直後の新生児のケアに必要な技術 出生直後の新生児の観察、諸計測等の演習、リフレクション <p>【ハイリスク児のケア 4時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 8-9. ハイリスク新生児のケア 生理的適応・神経行動学的発達を助けるケア、親・家族のケアと協働 <p>【乳幼児のケア 10時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 10-11. 乳幼児の心身の発達の実際(0~6ヶ月の発達) 12-13. 乳幼児の心身の発達の実際(7~18ヶ月の発達) 14. 乳幼児の心身の発達とその支援 15. 学習時間・単位認定試験 					
方法教育	講義・演習					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児の生理的特徴、身体的特徴、全身の観察項目、反射、各種指標・スコアとその評価などを復習して授業に臨む。 ・新生児の演習は、出生直後の児の特性や観察項目、身体計測の部位や方法・留意点などを復習し、児にとって安全・安楽な技術が提供できるように練習して臨む。 ・実習で児のケアを実践するための基盤となる授業なので、胎児循環から新生児循環への生理的適応や、呼吸確立の過程などを復習して臨む。 ・0才~3才までの成長発達の進み方(デンバー)、身体機能、運動機能、知的発達、感情の発達などを復習して臨む。 					
テキスト参考書	<p>【テキスト】</p> <p>新生児学入門 第5版 医学書院 助産学講座8 助産診断・技術学II [3] 新生児期・乳幼児期 第6版 医学書院 助産師基礎教育テキスト第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア 2022年版 日本看護協会出版会 新生児蘇生法テキスト 改訂第3版 メジカルビュー社</p>					
方法評価	筆記試験					

学科目	助産診断・技術学V	講師名		外来講師		単位 (時間)	1 単位 15 時間	前期	
目的	<p>母親の栄養管理は母親自身や子どもの健康に大きな影響を与える。ここでは、妊娠期から乳幼児期の栄養の必要を理解し、栄養学的エビデンスをもとに日常生活における食事指導を行うために必要な知識を養う。また、母親になる女性の栄養に関する考え方は幼少期からの影響も受けるため学童期・思春期の栄養や、各ライフサイクルにおける食生活を取り巻く諸問題についても学ぶ。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の食生活を栄養の視点で分析する。 2. 母子の栄養管理について具体的な支援方法を説明する。 3. 学童期、思春期の栄養に関する問題を関連付ける。 4. 食生活の現状、食生活を取り巻く諸問題に対し、母子栄養の視点で見解を示す。 								
授業計画	<p>【妊娠期からの母子の栄養と各ライフサイクルの栄養】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-2. 妊娠期の栄養 授乳期の栄養 3-4. 離乳食期の栄養 1歳から3歳までの栄養 5-6. 学童期・思春期の栄養 7. 食生活の現状、食生活を取り巻く諸問題 8. 単位認定試験 								
教育方法	講義								
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の食事への考え方が、母子の栄養指導に大きく影響するため、自己の食習慣を振り返って授業に臨む。 ・母子の栄養指導は実習で実際に行うため、積極的に授業に臨む。 ・適正な体重、塩分等のコントロールについて事前学習をする。 								
テキスト 参考書	<p>【テキスト】 助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学 第5版 医学書院</p>								
評価方法	筆記試験								

学科目	助産診断・技術学VI	講師名	外来講師 学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	前期																					
目的	女性のライフサイクル各期の身体・心理・社会的特徴と発達課題を理解し、各期の健康支援および健康教育実践の知識、技術を学ぶ。																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 性教育に対する自己の見解を示す。 2. 生殖補助医療を受けている対象及び家族の支援について例を述べる。 3. 生殖補助医療を受けている対象及び家族の意思を尊重した支援の重要性について議論する。 4. 遺伝相談を受ける対象および家族の意思を尊重した支援について説明する。 5. 女性の尿失禁の特徴と支援を述べる。 6. 女性の健康を守るために対象に合わせた家族計画指導案を立案する。 7. 家族計画の基本姿勢を踏まえ、指導案に基づいて家族計画指導を実践する。 																										
授業計画	<p>【女性のライフサイクル各期の支援】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-2. 思春期の支援 性教育を考える 3-4. 不妊の支援 5. 遺伝疾患と出生前診断 6. 遺伝相談の実際 7-8. 更年期の支援 下部尿路症状・骨盤底ケア <p>【家族計画指導】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 家族計画の基礎知識 (リプロダクティブヘルス/ライツ、人口施策、関連する法律等) 10. 受胎調節の実際 11. 家族計画の基本姿勢 12-14. 家族計画指導立案・実施 (紙上事例)、リフレクション 15. 学習時間・単位認定試験 																										
教育方法	講義、グループワーク																										
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・生殖器の解剖生理、特に性周期を理解して臨む。 ・自分が受けた性教育などを想起し、若者の性に対する考え等を自分なりにまとめておく。 ・生殖医療や治療を受けている対象及び家族の心理などを復習して臨む。 ・家族計画には、「性と生殖」について自分なりの考えをまとめて臨む。 ・少子化などの社会背景について事前に学習し、自分なりの意見をもち臨む。 																										
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <table border="0"> <tr> <td>助産学講座2 基礎助産学 [2]</td> <td>母子の基礎科学 第6版</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>助産学講座3 基礎助産学 [3]</td> <td>母子の健康科学 第5版</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>助産学講座4 基礎助産学 [4]</td> <td>母子の心理・社会学 第5版</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>助産学講座5 助産診断・技術学 I</td> <td>第6版</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>助産師基礎教育テキスト第2巻</td> <td>ウィメンズヘルスケア 2022年版</td> <td>日本看護協会出版会</td> </tr> <tr> <td>家族計画指導の実際</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> </table> <p>【参考書】</p> <table border="0"> <tr> <td>不妊に悩む女性への看護</td> <td></td> <td>メディカ出版</td> </tr> </table>						助産学講座2 基礎助産学 [2]	母子の基礎科学 第6版	医学書院	助産学講座3 基礎助産学 [3]	母子の健康科学 第5版	医学書院	助産学講座4 基礎助産学 [4]	母子の心理・社会学 第5版	医学書院	助産学講座5 助産診断・技術学 I	第6版	医学書院	助産師基礎教育テキスト第2巻	ウィメンズヘルスケア 2022年版	日本看護協会出版会	家族計画指導の実際		医学書院	不妊に悩む女性への看護		メディカ出版
助産学講座2 基礎助産学 [2]	母子の基礎科学 第6版	医学書院																									
助産学講座3 基礎助産学 [3]	母子の健康科学 第5版	医学書院																									
助産学講座4 基礎助産学 [4]	母子の心理・社会学 第5版	医学書院																									
助産学講座5 助産診断・技術学 I	第6版	医学書院																									
助産師基礎教育テキスト第2巻	ウィメンズヘルスケア 2022年版	日本看護協会出版会																									
家族計画指導の実際		医学書院																									
不妊に悩む女性への看護		メディカ出版																									
評価方法	筆記試験																										

学科目	助産診断・技術学Ⅶ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	前期
目的	周産期にある対象の支援を行うために、助産過程の概念や考え方および周産期（妊娠期・産褥期・新生児期）の継続支援の考え方を学び、助産過程および指導過程を展開する能力を養う。妊娠期・産褥・新生児期の支援を行うための思考過程を学び、助産学実習で活用する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産過程の概念、助産診断の枠組み（経過診断・健康生活診断）とは何か説明する。 2. 紙上事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期にある対象の情報を収集し適応しているか否か解釈する。 ・妊娠期にある対象の情報を分析し支援計画を立案する。 ・妊娠期にある対象の反応を基に目標と照らし合わせて自己の支援計画を評価する。 3. 妊娠期の生理的変化・心理社会的変化を事例展開に適用する。 4. 産褥・新生児期の紙上事例展開を既修の看護過程（理論）の考え方をを用いて分析し、支援計画を立案する。 					
授業計画	【助産過程 妊娠・産褥・新生児期】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の継続支援に必要な思考過程と助産過程（概念、枠組み）とは心理・社会的側面を捉えるための理論 2-3. 妊娠期の生理的変化・心理社会的変化 4-9. 妊娠期における助産過程（妊娠期の助産診断の視点）と事例展開・保健指導案の立案 10-14. 産褥・新生児期の事例展開と産褥期に必要な保健指導 15. 単位認定試験 					
教育方法	講義・演習 ・個人ワーク、グループワークを行う。					
履修上の助言	・助産学実習で活用できるように、積極的に主体的に学習する。 ・看護基礎教育で学習した母性看護学や看護過程、保健行動科学、指導技術を復習して臨む。 ・個人ワーク課題を必ず提出し指導を受けてからグループワークに参加する。 ・互いに学び合いの姿勢を大切に協力して取り組む。					
テキスト・参考書	【テキスト】 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 第6版 医学書院 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 第6版 医学書院 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 第6版 医学書院 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 第6版 医学書院 助産師基礎教育テキスト第4巻 妊娠期の診断とケア 2022年版 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア 2022年版 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア 2022年版 日本看護協会出版会 改訂第3版 胎児心拍数モニタリング講座 メディカ出版 【参考書】 シスター・カリスタ・ロイ著松木光子監訳「ザ・ロイ適応看護モデル 第2版」医学書院、2010 佐藤栄子編著「中範囲理論入門 第2版」日総研出版 2010 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象を理解するために必要な参考書 看護基礎教育で使用した看護過程の参考書・文献など					
評価方法	筆記試験 及び 演習への取り組みに対する客観的評価					

学科目	助産診断・技術学Ⅷ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	前期
目的	周産期にある対象の支援を行うために、助産過程の考え方を踏まえ、分娩期と継続支援の考え方を学び、助産過程を展開する能力を養う。					
到達目標	<p>紙上事例を用いて分娩期と分娩後 2 時間・出生後 2 時間と継続支援の助産過程を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩各期のアセスメントに必要な情報を収集する。 2. 分娩期のアセスメント・事例の個別性に合わせた助産計画を立案する。 3. 分娩期に必要な支援と評価の手立てを考える。 4. 新生児出生直後ケアに必要な情報を収集する。 5. 新生児のアセスメント・事例の個別性に合わせた新生児出生直後ケア計画を立案する。 6. 新生児出生直後ケアに必要な支援と評価の手立てを考える。 7. 継続支援（2 週間健診・1 か月健診）に必要な情報を収集する。 8. 継続支援（2 週間健診・1 か月健診）のアセスメント・支援を考える。 9. 学んだことをグループで発表し共有する。 					
授業計画	<p>【分娩期の助産過程】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期アセスメントに必要な視点と情報収集 2. 分娩期アセスメント事例展開 3-4. 分娩期アセスメントの学びの共有 5-6. 分娩経過記録の視点と記載方法 事例展開 7-8. 分娩期の支援計画立案 9-11. 新生児アセスメント事例展開 12-14. 継続支援の事例展開 15. 学習時間・単位認定試験 					
教育方法	<p>講義・演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産学実習で実際に使用する記録用紙を用いて助産過程の事例展開を行う。 ・紙上事例（分娩期～1ヶ月健診まで）を用いて個人ワークとグループワークで学習していく。 ・既習学習をベースに予習・復習を行い、学習を進める。 					
履修上の助言	<p>分娩期から1ヶ月健診までの紙上事例をもとに実習で使用する記録を用いて助産過程を展開します。既習学習内容は復習し、いつでも活用できるレベルとなるように準備して下さい。個人学習の課題を提示しますが、期日を守って提出することが前提です。その学習を活かしてグループディスカッションを行いますので、主体的に準備し、学習を進めて下さい。疑問はそのままにせずわからないことがわかるようになるステップを大切にしながら積極的に授業に臨んで下さい。</p>					
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <p>助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 第6版 医学書院 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 第6版 医学書院 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 第6版 医学書院 助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア 2022年版 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア 2022年版 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 2022年版 日本看護協会出版会 改訂3版 胎児心拍数モニタリング講座 メディカ出版</p> <p>【参考書】</p> <p>北山眞理子他「今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第4版」 南江堂 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象を理解するために必要な参考書</p>					
評価方法	筆記試験					

学科目	助産診断・技術学IX	講師名	外来講師 学内教員	単位 (時間)	1単位 15時間	前期
目的	自然な経過を活かした分娩介助を行うために、分娩介助技術の理論と分娩期に必要な支援を学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常分娩機転と分娩介助技術を関連付ける（フリースタイル含む）。 2. 分娩4要素と分娩経過の関連性について解釈を述べる。 3. 分娩期にある対象（出生直後の新生児を含む）に必要な支援について議論する。 4. 分娩介助に必要な診断技法の目的・必要性・得られる情報の意味・留意点などを説明する。 5. 分娩介助時の助産師の役割と責任について自己の解釈を述べる。 6. 助産師が行う分娩介助の価値を認める。 7. 協同学習活動に参加し、チームメンバーとしての責任を負う。 					
授業計画	【分娩介助学】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩介助の意義と原理 2-3. 分娩各期の母子の支援（協同学習） 4-5. 分娩期に必要な診断技法、技術 6. 助産師の役割と責任 安全対策 7. フリースタイル分娩の理論 <ol style="list-style-type: none"> 8. 単位認定試験 					
教育方法	講義・演習・グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・分娩機転、分娩経過、フリースタイル分娩等は視聴覚教材を用い理解を深める。 ・分娩台、内診モデル、分娩介助シミュレータ等の教材を使用しイメージ化を図りながら進める。 ・グループ学習を取り入れ、学びを共有する。 					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・助産診断・技術学Xおよび臨床実習での分娩介助の根拠となる授業であるため、母性看護学、基礎助産学IV・V、助産診断・技術学IVなど関連科目を復習して臨む。 (骨盤の解剖、分娩機転、分娩の四要素、付属物の作用と観察、胎児循環と新生児の循環の違い、新生児の呼吸の確立過程など) ・助産診断・技術学X（演習）と関連させながら学びを深める。 					
テキスト 参考書	【テキスト】 助産学講座7 助産診断・技術学II[2]分娩期・産褥期 第6版 医学書院 助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア 2022年版 日本看護協会出版会 分娩介助学 第2版 進純郎 医学書院 【参考書】 DVDで学ぶ助産師の「わざ」仰臥位分娩介助技術 村上明美 医歯薬出版株式会社 DVDで学ぶ助産師の「わざ」フリースタイル分娩介助 村上明美 医歯薬出版株式会社					
評価方法	筆記試験					

学科目	助産診断・技術学Ⅹ	講師名	外来講師 学内教員	単位 (時間)	1 単位 45 時間	前期
目的	生理的経過を活かして安全に分娩介助を行うために、正常分娩介助に必要な基本的な技術を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩介助手順に基づいて、仰臥位分娩介助技術を正確に実践する。 2. 分娩介助手順に基づいて、分娩介助時の各役割を実践する。 3. 分娩介助チームの連携について説明する。 4. 産婦役割を体験し、産婦の心理状態についての気づきを述べる。 5. 分娩介助演習を通してチームメンバーとしての責任を負う。 6. 分娩介助演習の振り返りを通して、助産学実習へ向けて自己課題を見出す。 7. モデルを使用して会陰裂傷発生時の縫合技術を手順に従って実施する。 8. フリースタイル分娩介助を例に倣って実施する。 					
授業計画	【分娩介助演習】 1-19. 正常仰臥位分娩介助のデモンストレーション チームでの分娩介助演習 20. 会陰縫合技術演習 21. フリースタイル分娩介助技術演習 22-23. 分娩介助技術試験・分娩介助技術試験振り返り					
教育方法	演習 <ul style="list-style-type: none"> ・事例を基に分娩進行を予測し、直接介助・新生児出生直後ケア担当・間接介助・産婦役に分かれ、分娩室の準備～分娩後2時間(早期母子接触を含む)までの一連の技術を本学科分娩介助手順に基づいて習得する。 ・分娩介助演習は3～4人に1つの分娩介助シミュレータ、リアルパンツセット、必要な器械・器具等を用いて行う。 ・毎回演習後に、分娩介助技術・各役割の振り返りを行う。 ・縫合演習は、縫合モデルを使用し実際の縫合器具を用いて行う。 ・フリースタイル分娩介助の技術演習をデモンストレーションにならって実施する。 					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護技術の復習をして臨む。(滅菌物の取り扱い、手袋・ガウンの着用、清潔操作、導尿、点滴中の寝衣交換、危険物の取り扱い、清拭、足浴など) ・基礎助産学Ⅳ・Ⅴ、助産診断・技術学Ⅳ・Ⅸの復習をして臨む。(分娩の4要素、正常分娩機転、分娩進行に応じた観察項目と判断、用語の定義、胎児循環から新生児循環への生理的な適応過程、呼吸の確立過程、新生児の全身の観察やアプガールスコアの判定など) ・本校で作成した分娩介助の映像を視聴し、技術習得のためにチームで計画的に演習を行う。 ・毎回振り返りを行い、自己およびチームの課題を明確にし、目標を持って取り組む。 ・事例をもとに、実際の分娩をイメージし、分娩期の各役割間の連携、産婦と家族への配慮にも着目しながら演習に取り組む。 ・臨地実習で実践する重要な内容であることを踏まえ、確実な知識と技術を身につけるようにする。 					
テキスト 参考書	【テキスト】 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 第6版 医学書院 助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア 2022年版 日本看護協会出版会 分娩介助学 第2版 進純郎 医学書院 助産師学科作成 「分娩介助手順」2022年版 【参考書】 DVDで学ぶ助産師の「わざ」仰臥位分娩介助技術 村上明美 医歯薬出版株式会社 DVDで学ぶ助産師の「わざ」フリースタイル分娩介助 村上明美 医歯薬出版株式会社					
評価方法	分娩介助技術実技試験					

学科目	助産診断・技術学XI	講師名	学内教員	単位 (時間)	1単位 30時間	前期
目的	助産の対象に必要な健康教育を計画・実施・評価するための基礎的知識を修得する。 また、助産の対象となる女性の各ライフサイクルに合わせた健康教育を企画する能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師が行う健康教育の意義について説明する。 2. 健康教育の一連のプロセスを説明する。 3. 健康教育を計画するときに必要な情報について解釈を述べる。 4. 健康教育を計画するときに活用できる理論について説明する。 5. 健康教育プログラムの作成方法を説明する。 6. 助産の対象に効果的な健康教育を企画する。 					
授業計画	【健康教育 I】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康教育とは 「健康教育の対象と主要概念」 2. 健康教育の一連のプロセス (計画・実施・評価) 3. 健康行動理論・健康教育モデル 4. 健康教育計画の立案① 5. 健康教育計画の立案② 6. 健康教育の実施に必要なスキルと評価 7-14. 助産の対象における健康教育の企画 15. 単位認定試験					
教育方法	講義・協同学習					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・看護基礎教育で学習した教育学、保健行動科学や指導技術などを復習して臨む。 ・助産の対象がどのような生活を送っているのか、新聞・TV等のメディアなど社会的な視点を含めて関心を持つ。 ・対象への健康教育・保健指導は助産師の大きな役割であり、実習ですぐに取り組む内容であるので、主体的に演習に臨む。 					
テキスト 参考書	【テキスト】 助産学講座5 助産診断・技術学I 第6版 医学書院 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第5版 医学書院 【参考書】 新しい健康教育—理論と事例から学ぶ健康増進への道— 保健同人社 ヘルスプロモーション—PRECEDE-PROCEED モデルによる活動の展開— 医学書院 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎—生活習慣病を中心に— 医歯薬出版 行動変容のための健康教育パワーアップガイド—効果をもつ32のヒント— 医歯薬出版 行動変容を促すヘルス・コミュニケーション—根拠に基づく健康情報の伝え方— 北大路書房					
評価方法	筆記試験 演習 (学習課題・技術・協同学習の参加状況)					

学科目	助産診断・技術学Ⅱ	講師名	学内教員	単位 (時間)	1 単位 30 時間	前期
目的	妊娠期の対象に合わせた健康教育を計画・実施・評価するための実践能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の対象に根拠を明確にして健康教育を計画する。 2. 妊娠期の対象に健康教育を効果的に実施する。 3. 自己が実施した健康教育を評価指標に沿って評価する。 4. 助産師が行う健康教育の意義について、自己の見解を示す。 5. チームでの協同学習に対する責任を負う。 					
授業計画	【健康教育Ⅱ】 模擬の対象集団に健康教育の一連のプロセス（計画・実施・評価）を展開する。 <ol style="list-style-type: none"> 1-2. 演習：チーム運営準備・健康教育の対象の選定 3-10. 演習：健康教育計画の立案 11-12. 演習：健康教育の実施とその評価① 13-14. 演習：健康教育の実施とその評価② 15. 助産師が行う健康教育の意義 					
教育方法	チームで協同学習を行う					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の助産観を明確にしてチームでの活動に参加する。 ・ 自己の役割を意識してチーム活動に積極的に参加する。 ・ チームの学習計画を立案し、進捗状況に応じて計画の変更を行う。 ・ ファシリテーターと報告・連絡・相談をタイムリーに行う。 ・ 自己のプレゼンテーション能力を客観的に振り返り、向上に努める。 ・ 助産学実習や他の科目で活用する内容なので、主体的に臨む。 					
テキスト 参考書	【テキスト】 助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ 第6版 助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健 第5版 【参考書】 新しい健康教育—理論と事例から学ぶ健康増進への道— ヘルスプロモーション—PRECEDE-PROCEED モデルによる活動の展開— 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎—生活習慣病を中心に— 行動変容のための健康教育パワーアップガイド—効果を高める 32 のヒント— 行動変容を促すヘルス・コミュニケーション—根拠に基づく健康情報の伝え方—				医学書院 医学書院 保健同人社 医学書院 医歯薬出版 医歯薬出版 北大路書房	
評価方法	演習（学習課題・技術・協同学習の参加状況）					

学科目	地域母子保健 I	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	前期
目的	地域で生活する母子の現状とニーズを理解し、母子保健活動の意義を学ぶ。 母子を取り巻く保健活動について国際的な視点を持てるように、諸外国の母子保健の現状についても学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域母子保健の概要を説明する。 2. 社会情勢と母子のニーズから母子保健の課題を挙げ、母子保健政策の意義を述べる。 3. 諸外国の母子保健事業について根拠をふまえて説明する。 					
授業計画	<p>【地域母子保健の概論 10 時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 - 2. 地域母子保健の意義、地域母子保健活動の基盤、母子保健の現状と動向 3 - 4. 母子保健のニーズの政策化と事業、母子保健に関連する法律 5. 学校保健法、産業保健と母子保健、災害時の母子保健活動 <p>【国際母子保健 4 時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 - 7. 諸外国の母子保健 8. 単位認定試験 					
教育方法	講義					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉保健センター等で行なっている母子保健サービスを調べる。 (母子保健法、児童福祉法などの根拠になる法律とサービスを結びつけて復習をする) ・地域で生活している人の子育てに関するニーズ、不安、子育ての環境などを事前に調べ授業に出席する。 					
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <p>助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第5版 わが国の母子保健</p> <p>医学書院 母子衛生研究会</p>					
評価方法	筆記試験					

学科目	地域母子保健Ⅱ	講師名	外来講師	単位 (時間)	1単位 15時間	前期
目的	地域での母子保健活動と助産師の役割について学び、地域で生活する母子の多様なニーズに合わせた支援とは何かを考える。また多職種との連携・協働して母子を支える保健活動を実践する能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児および乳幼児の発達に応じた健康診査の意義と内容を説明する。 2. 地域での子育て支援の視点で現状課題とその支援を説明する。 3. 新生児の家庭訪問を訪問計画に沿って実施する。 4. 地域母子保健での助産師の役割や課題について述べる。 					
授業計画	<p>【地域母子保健の実際】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域母子保健事業の実際（4か月健診を含む） 2. 子育て支援の実際 3. 母子のニーズと課題、他職種における母子保健活動 4. 訪問事業(妊産褥婦、新生児) 5-7. 新生児家庭訪問演習 8. 単位認定試験 					
教育方法	講義・演習					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活している人の子育てに関するニーズ、不安、子育ての環境などを事前に調べ授業に参加する。 ・新生児の家庭訪問は臨地実習で実際に行うため助産診断技術学Ⅳ(乳幼児の発達)や産褥期のケアを復習して臨む。 ・この科目は助産学実習Ⅵ(地域実習)で実際に活用する内容のため積極的に授業に参加する。 					
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <p>助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児・乳幼児期 第6版 医学書院</p> <p>助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第5版 医学書院</p> <p>助産師基礎教育テキスト第6巻産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア 2022年版 日本看護協会出版会</p>					
評価方法	筆記試験					

学科目	助産管理 I	講師名	外来講師	単位 (時間)	1 単位 15 時間	前期
目的	<p>この科目では、助産管理のうち助産師として身につけておかなければならない法律、および医療安全について学修します。法律の勉強と聞くだけで、「難しくて、きらいだ!」と感じる学生もたくさんいるでしょう。しかし、それぞれの法律の成り立ちや各法律の目的を知ることで、少しずつ興味を持てるようになります。ここでの学修は、各法令を学ぶだけではなく、助産師として経験する状況に応じ必要な法律知識を学びます。国家試験に出題される内容もたくさん含まれますが、自分の将来のために学修するという目的を持って取り組んでください。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な法制度を説明する。 2. 助産師業務に関連する法律について詳しく説明する。 3. 医療安全の取り組みについても説明する。 					
授業計画	<p>【助産に関する法律と医療安全】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-2. 法の概念・助産師の安全管理・助産所・助産師 3-4. 妊娠中の支援・出産後の支援・母子の保護・母子保健法、母体保護法 5-6. 児童福祉法、児童虐待防止法・母子保健法、母体保護法・発達障害者支援法ほか 少子化社会対策基本法ほか 7. 性同一性障害者特例法ほか・労働関連法規 8. 単位認定試験 					
教育方法	講義					
履修上の助言	<p>法律は、社会の要請で成立、改正されていくものです。したがって世の中の動きを学修することが法律を学ぶことに直結します。テレビやネットでニュースを見ることが大切です。社会の問題を他人事と思わず、自分にも必ず関わりのある問題だと認識することが大切です。</p>					
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <p>助産学講座10 助産管理 第6版 医学書院</p> <p>助産師基礎教育テキスト第3巻 周産期における医療の質と安全 2022年版 日本看護協会出版会 オリジナルの配布プリント</p>					
評価方法	筆記試験（知識度）、講義中の発言（関心度）					

学科目	助産管理Ⅱ	講師名	外来講師	1 単位 (時間)	単位 15 時間	前期
目的	質の高い助産サービスを提供するために助産業務管理に必要な知識、法的範囲と責任について理解し、マネジメントできる基礎的能力を養う。助産師は直接ケアを提供することにとどまらず、制度や政策に働きかけることも重要な役割であることを理解し、活動する基盤とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産管理におけるマネジメント視点の必要性を説明する。 2. 助産院における助産管理について説明する。 3. 病院および助産所において医療安全の視点でリスクを列挙しその具体的な対策を述べる。 4. 助産院における地域活動について説明する。 5. 組織の中の一員として仕事する意味、連携、責任について述べる。 6. 助産政策の意義について自己の考えを述べる。 					
授業計画	<p>【病院における業務管理 8時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 管理の基本概念、助産管理の概念とそのプロセス 2. 助産業務管理に必要な資源とそのマネジメント 3. 産科を取り巻く現状と安全性と快適さへのサービス 4. 医療安全(感染を含む)とリスクマネジメント、災害対策 <p>【助産院における業務管理 6時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 助産所とは(定義・開業形態・業務内容・施設設備など) 6. 助産所の管理・運営の実際 助産業務ガイドラインに基づく妊産褥婦の管理 安全管理(災害対策を含む) 7. 助産師の活動と助産政策 8. 単位認定試験 					
教育方法	講義・グループワーク					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ですぐに必要な授業内容であり、この学習が活かせるよう積極的に参加すること。 ・出産に対するニーズやサービスについて調べてみる。 ・医療事故に関心を持ち新聞等を良く読む。 ・自己の生活を管理の視点で考えてみる。(時間の使い方・物品の購入や在庫の管理・情報の管理・経済性など) ・保助看法の助産師の定義・身分・業務・責務を確認しておく。 					
テキスト 参考書	<p>【テキスト】</p> <p>助産学講座10 助産管理 第6版 医学書院</p> <p>助産師基礎教育テキスト第3巻 周産期における医療の質と安全 2022年版 日本看護協会出版会</p> <p>【参考書】</p> <p>助産業務ガイドライン2019 日本助産師会</p> <p>日本助産評価機構ハンドブック 日本助産評価機構</p>					
評価方法	筆記試験					

学科目	助産学実習 I	実習 施設	神奈川県下 病院	単位 (時間)	1 単位 45 時間	前・後期
目的	<p>妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の基礎的な助産実践を科学的根拠に基づいて実践する能力と正常からの逸脱を予防するための助産過程の展開、個別性を尊重した継続支援の実践能力を修得する。この過程を通して助産師の責務と規範を学び、助産師としてのアイデンティティを育む。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象とのコミュニケーションを通して、対象のニーズ、個別性を明らかにする。 2. 妊娠期の助産診断ができる。 3. 妊娠期の助産計画を科学的根拠に基づいて立案する。 4. 対象の個別性や優先順位を考慮した妊娠期の助産ケアを実践する。 5. 実践した助産過程を振り返り、評価する。 6. 周産期に必要な保健医療チームとの連携について考えることができる。 7. 助産師の責務を踏まえて医療チームの一員である助産師学生として行動する。 					
授業計画	<p>【妊娠期実習】 実習内容とすすめ方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠初期から1事例を受け持ち、継続して妊婦健診に同行し、助産過程を実践する。 2. 妊娠中期から1事例を受け持ち、継続して妊婦健診に同行し、助産過程を実践する。 3. 妊婦健診に必要な技術を実施する。 4. 妊娠各期の診察や検査を見学する。 5. 妊娠各期の保健指導を見学する。 6. 妊娠期の集団指導（両親学級・母親学級など）を見学する。 7. カンファレンスで、経験したことや感じたことを積極的に発言し、学びを共有する。 8. 日々の実践と学びを記録し、指導者よりアドバイスを受ける。 					
教育方法	<p>臨地実習</p>					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・実習要項を熟読して実習に臨む。 ・事前学習内容を中心に学習ノートを整理する。 ・助産学実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳが同時進行するため計画的に実習を行う。 ・妊娠期に行なわれている集団指導の参加は計画的に行う。 ・自らの健康管理を行う。 ・医療職としての守秘義務を厳守し、個人情報の取り扱いには学校・施設の取り決めを遵守する。 ・主体的学習者として誠実な態度で接し、助産師学生としての言動に責任をもつ。 ・連絡、報告、相談をタイムリーに行う。 					
テキスト 参考書	<p>助産師学科で使用するテキストすべて</p>					
評価方法	<p>助産学実習 I 評価表</p>					

学科目	助産学実習Ⅱ	実習施設	神奈川県下 病院	単位 (時間)	3単位 135時間	前・後期	
目的	<p>妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の基礎的な助産実践を科学的根拠に基づいて実践する能力と正常からの逸脱を予防するための助産過程の展開、個別性を尊重した継続支援の実践能力を修得する。この過程を通して助産師の責務と規範を学び、助産師としてのアイデンティティを育む。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象とのコミュニケーションを通して、対象のニーズ、個別性を明らかにする。 2. 分娩期の助産診断ができる。 3. 分娩期の助産計画を科学的根拠に基づいて立案する。 4. 対象の個別性や優先順位を考慮した分娩介助技術・分娩期の助産ケアを実践する。 5. 実践した助産過程を振り返り、評価する。 6. 周産期に必要な保健医療チームとの連携について考えることができる。 7. 助産師の責務を踏まえて医療チームの一員である助産師学生として行動する。 						
授業計画	<p>【分娩期実習】 実習内容とすすめ方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指導者のもと、分娩期にある女性とその家族への援助の実践を学ぶ。 2. 分娩期にある対象を受け持ち、助産過程を実践する。 分娩介助を7（もしくは8）例実施する。 新生児出生直後ケアを3例以上実施する。 終了後、指導者と支援の振り返りを行い自己の課題と今後の取り組みを明確にする。 3. 分娩期におけるチームの連携を学ぶ。 4. カンファレンスで、経験したことや感じたことを積極的に発言し、学びを共有する。 5. 日々の実践と学びを記録し、指導者よりアドバイスを受ける。 						
教育方法	<p>臨地実習</p>						
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・実習要項を熟読して実習に臨む。 ・事前学習内容を中心に学習ノートを整理する。 ・実習前及び実習中に各実習グループで実習に必要な技術演習を行う。 ・助産学実習Ⅰ、Ⅲ、Ⅳが同時進行するため計画的に実習を行う。 ・指導者の指導のもと施設の機械や器具を使用し分娩介助のシミュレーションを積極的に行う。 ・分娩進行者が居る場合はメンバーで役割(直・間接介助、児受け)を決め実習を行う。 ・規定数の分娩介助を行うために時間外(夜間)や分娩待機(土日祭日)をすることもある。 ・医療職としての守秘義務を厳守し、個人情報の取り扱いが学校・施設の取り決めを遵守する。 ・主体的学習者として誠実な態度で接し、学生としての言動に責任をもつ。 ・連絡、報告、相談をタイムリーに行う。 ・自らの健康管理を行う。 						
テキスト 参考書	<p>助産師学科で使用するテキストすべて</p>						
評価方法	<p>助産学実習Ⅱ評価表</p>						

学科目	助産学実習Ⅲ	実習 施設	神奈川県下 病院	単位 (時間)	4単位 180時間	前・後期
目的	<p>妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の基礎的な助産実践を科学的根拠に基づいて実践する能力と正常からの逸脱を予防するための助産過程の展開、個別性を尊重した継続支援の実践能力を修得する。この過程を通して助産師の責務と規範を学び、助産師としてのアイデンティティを育む。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象とのコミュニケーションを通して、対象のニーズ、個別性を明らかにする。 2. 産褥期の助産診断ができる。 3. 産褥期の助産計画を科学的根拠に基づいて立案する。 4. 対象の個別性や優先順位を考慮した産褥期の助産ケアを実践する。 5. 実践した助産過程を振り返り、評価する。 6. ハイリスク新生児の入院環境と看護の実際について説明する。 7. 周産期に必要な保健医療チームとの連携について考えることができる。 8. 助産師の責務を踏まえて医療チームの一員である助産師学生として行動する。 					
授業計画	<p>【産褥・新生児期実習】 実習内容とすすめ方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指導者のもと、産褥・新生児期にある女性とその家族への援助の実際を学ぶ。 2. 分娩期（分娩介助を含む）～1ヵ月健診まで継続して2事例受け持ち、助産過程を実践する。分娩期は助産学実習Ⅱに準じる。 全身の復古の促進、進行性変化の促進、新たな役割の獲得など、対象に必要な支援を行う。 3. 産褥期にある対象に保健指導を計画・実施・評価する。 4. 施設で行われている退院後の継続支援の実際を学ぶ。 5. カンファレンスで、経験したことや感じたことを積極的に発言し、学びを共有する。 6. 日々の実践と学びを記録し、指導者よりアドバイスを受ける。 7. NICUを見学し、ハイリスク母子に対する援助の実際を学ぶ。 					
教育方法	<p>臨地実習</p>					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・実習要項を熟読して実習に臨む。 ・事前学習内容を中心に学習ノートを整理する。 ・実習前及び実習中に各実習グループで実習に必要な技術演習を行う。 ・助産学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅳが同時進行するため計画的に実習を行う。 ・指導者の指導のもと施設の機械や器具を使用し分娩介助のシミュレーションを積極的に行う。 ・分娩進行者が居る場合はメンバーで役割(直・間接介助、児受け)を決め実習を行う。 ・規定数の分娩介助を行うために時間外(夜間)や分娩待機(土日祭日)をすることもある。 ・産褥・新生児期を継続して受け持つ期間は、時間外(土日祝日)実習も行う。 ・医療職としての守秘義務を厳守し、個人情報の取り扱いは学校・施設の取り決めを遵守する。 ・主体的学習者として誠実な態度で接し学生としての言動に責任をもつ。 ・連絡、報告、相談をタイムリーに行う。 ・自らの健康管理を行う。 					
テキスト 参考書	<p>助産師学科で使用するテキストすべて</p>					
評価方法	<p>助産学実習Ⅲ評価表</p>					

学科目	助産学実習Ⅳ	実習 施設	神奈川県下 病院または助産院	単位 (時間)	1単位 45時間	前・後期
目的	妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の基礎的な助産実践を科学的根拠に基づいて実践する能力と正常からの逸脱を予防するための助産過程の展開、個別性を尊重した継続支援の実践能力を修得する。この過程を通して助産師の責務と規範を学び、助産師としてのアイデンティティを育む。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象とのコミュニケーションを通して、対象のニーズ、個別性を明らかにする。 2. 妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の助産診断ができる。 3. 妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の助産計画を科学的根拠に基づいて立案する。 4. 対象の個別性や優先順位を考慮した妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の助産ケアを実践する。 5. 実践した助産過程を振り返り、評価する。 6. 周産期に必要な保健医療チームとの連携について考えることができる。 7. 助産師の責務を踏まえて医療チームの一員である助産師学生として行動する。 					
授業計画	<p>【継続事例実習】 実習内容とすすめ方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠中期から母子の1か月健診までを継続して1事例を受け持ち、対象の助産過程を実践する。(病院または助産院) 2. 継続事例の妊婦健診に同行し、妊婦健診に必要な技術を実施する。 3. 状況が可能であれば、継続事例の分娩介助や分娩見学を行う。 4. 継続事例の産褥期・新生児期に必要な支援を指導者とともに実施する 5. カンファレンスで、経験したことや感じたことを積極的に発言し、学びを共有する。 6. 日々の実践と学びを記録し、指導者よりアドバイスを受ける。 					
教育方法	臨地実習					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・実習要項を熟読して実習に臨む。 ・事前学習内容を中心に学習ノートを整理する。 ・助産学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、助産所での助産学実習Ⅳが同時進行するため計画的に実習を行う。 ・継続事例の妊婦健診、分娩、産褥・新生児期は、時間外(土日祝日・夜間)も実習を行う。 ・継続事例の分娩に備えて生活環境を整え、土日祝日・夜間の交通手段の確認を行う。 ・医療職としての守秘義務を厳守し、個人情報の取り扱いが学校・施設の取り決めを遵守する。 ・学習者として誠実な態度で接し、助産師学生としての言動に責任をもつ。 ・連絡、報告、相談をタイムリーに行う。 ・自らの健康管理を行う。 					
テキスト 参考書	助産師学科で使用するテキストすべて					
評価方法	助産学実習Ⅳ評価表					

学科目	助産学実習V	実習 施設	神奈川県下 助産所	単位 (時間)	1単位 45時間	後期
目的	助産所の管理・運営と地域母子保健活動等の実際を学び、助産所での妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の助産実践を通して助産師の責務について発展的に考える能力を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産所の管理・運営の特徴を説明する。 2. 助産所が行う地域母子保健活動の実際を説明する。 3. 助産所における妊産褥婦・新生児への助産ケアの実際を説明する。 4. 地域の母子保健活動における多職種連携・協働について考えることができる。 5. 助産師の責務を踏まえて医療チームの一員である助産師学生として行動する。 					
授業計画	<p>【助産管理実習】 実習内容とすすめ方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 助産所でオリエンテーションを受け、管理・運営の実際を学ぶ。 2. 助産所で行われる妊婦健診、分娩介助、産褥期・新生児期の支援を見学する。 3. 助産所で行われる妊婦健診、分娩介助、産褥期・新生児期の支援の一部を指導者とともに実施する。 4. 助産所の行う地域母子保健活動に参加する。 5. 助産所と他施設・多職種との連携や協働の実際を見学する。 6. カンファレンスで経験したことや感じたことを積極的に発言し、学びを共有する。 7. 日々の実践と学びを記録し、指導者よりアドバイスを受ける。 					
教育方法	臨地実習					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・実習要項を熟読して実習に臨む。 ・事前学習内容を中心に学習ノートを整理する。 ・オリエンテーションを受け、助産所の概要や理念を理解する。 ・助産所での周産期のケアを見学、一部実施できるように主体的に調整する。 ・学習状況に応じて時間外（土日祝日・夜間）も実習を行う。 ・時間外実習に備えて生活環境を整え、助産所との連絡方法、交通手段の確認を行う。 ・助産所管理実習の視点を常に持ち、機会を逃さずに積極的に学ぶ。 ・医療職としての守秘義務を厳守し、個人情報の取り扱いは学校・施設の取り決めに遵守する。 ・学習者として誠実な態度で接し、助産師学生としての言動に責任をもつ。 ・連絡、報告、相談をタイムリーに行う。 ・自らの健康管理を行う。 					
テキスト 参考書	助産師学科で使用するテキストすべて					
評価方法	助産学実習V評価表					

学科目	助産学実習VI	実習 施設	神奈川県下 福祉保健センター等	単位 (時間)	1単位 45時間	前・後期
目的	地域における母子保健活動や継続支援の実際を知り、母子保健をめぐる法律、制度、施策について理解し、助産師として多職種と連携・協働し、子育てを支援する能力を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健センター等の機能・役割について説明する。 2. 当該実習地域の特性や母子保健の現状からニーズを把握する。 3. 地域の特性に合わせた母子保健活動の実際を見学し、地域で生活する親子を支援するための方法を説明する。 4. 母子保健活動における助産師の役割について説明する。 5. 行政が行う母子保健活動における多職種連携・協働について考えることができる。 6. 助産師の責務を踏まえて医療チームの一員である助産師学生として行動する。 					
授業計画	<p>【地域母子保健実習】 実習内容とすすめ方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 合同オリエンテーション実習に出席し、地域の特性と概要を学ぶ。 2. 指導者のもと、施設の事業に参加し母子保健活動の実際を学ぶ。 母子保健サービス：母子健康手帳の配布など 乳幼児健診 健康相談：育児相談、母乳相談、家族計画相談など 健康教育：思春期教育、母親(両親)学級、更年期教育など 地域活動：子育て支援 3. 新生児家庭訪問から4か月健診までを見学・経験し継続支援の実際を学ぶ。 4. 多職種との連携や協働を学ぶ。 5. 毎日のカンファレンスは、経験したことや感じたことを積極的に発言し、学びを共有する。 6. 日々の実践と学びを記録し、指導者よりアドバイスを受ける。 					
教育方法	臨地実習					
履修上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・実習要項を熟読して実習に臨む。 ・事前学習内容を学習ノートに整理する。 ・合同オリエンテーションの内容を復習して実習に臨む。 ・地域母子保健の視点を常に持ち、機会を逃さずに積極的に学ぶ。 ・家庭訪問時は学生として挨拶等、マナーを守る。 ・医療職としての守秘義務を厳守し、個人情報の取り扱いは学校・施設の取り決めを遵守する。 ・主体的学習者として誠実な態度で接し、助産師学生としての言動に責任をもつ。 ・連絡、報告、相談をタイムリーに行う。 ・自らの健康管理を行う。 					
テキスト・参考書	助産師学科で使用するテキストすべて					
評価方法	助産学実習VI評価表					